

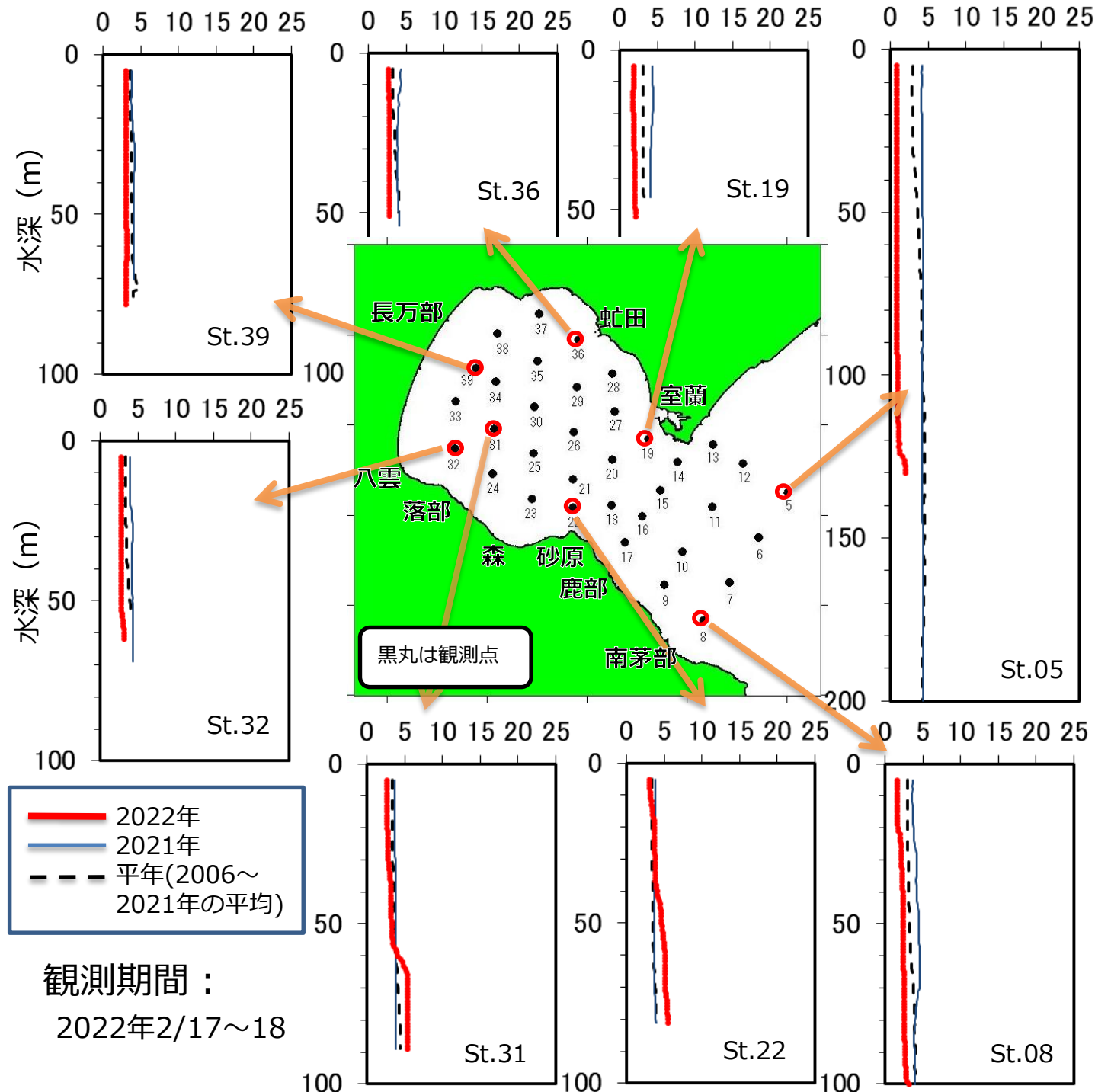
2022年2月17～18日に釧路水産試験場試験調査船「北辰丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

噴火湾内および湾外では大気からの冷却により鉛直混合が進み、水温は海面から海底までほぼ一様となっています。噴火湾内の水温は1～3℃台で（St.22,31の深度60m以深を除く）、平年に比べ1℃前後低くなっています。噴火湾外の水温は0～2℃台で湾内よりも低く、平年に比べ1～3℃低くなっています。

水温 (°C)



観測期間：
 2022年2/17～18

図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布と深度20mにおける水温の水平分布

【水温，塩分の水平分布】

調査海域の深度20mの水温は0～4℃台，塩分は32.4～33.4の範囲でした。噴火湾外には低温で低塩分な親潮系水（水温3℃以下，塩分33.3以下）が広く分布し，胆振側から噴火湾内に流入しています。

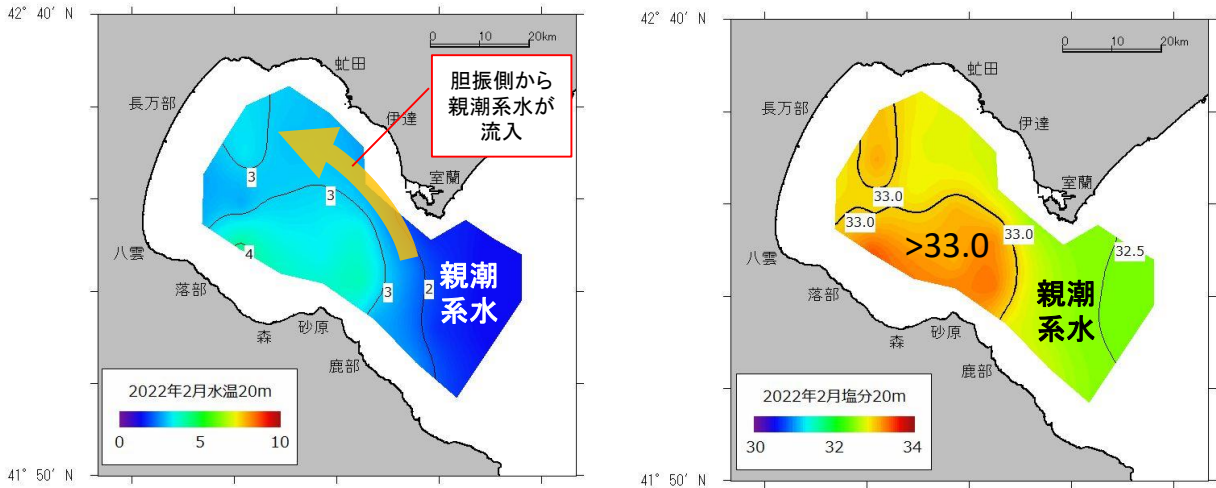


図2 深度20mにおける水温（左）と塩分（右）の水平分布（2022年2月）

【襟裳岬以西の親潮系水の分布状況】

上述した親潮系水は，冬季に道東太平洋から噴火湾方面に流れてきます。襟裳岬以西の水温と塩分の水平分布を見ると，前年同期（図3の上図）は津軽海峡から流出する津軽暖流水（水温6℃以上）に阻まれ親潮系水は浦河沖に留まっていたようですが，今年（図3の下図）は津軽暖流水はほとんど見られず，襟裳岬以西では恵山沖まで広く親潮系水に覆われています。

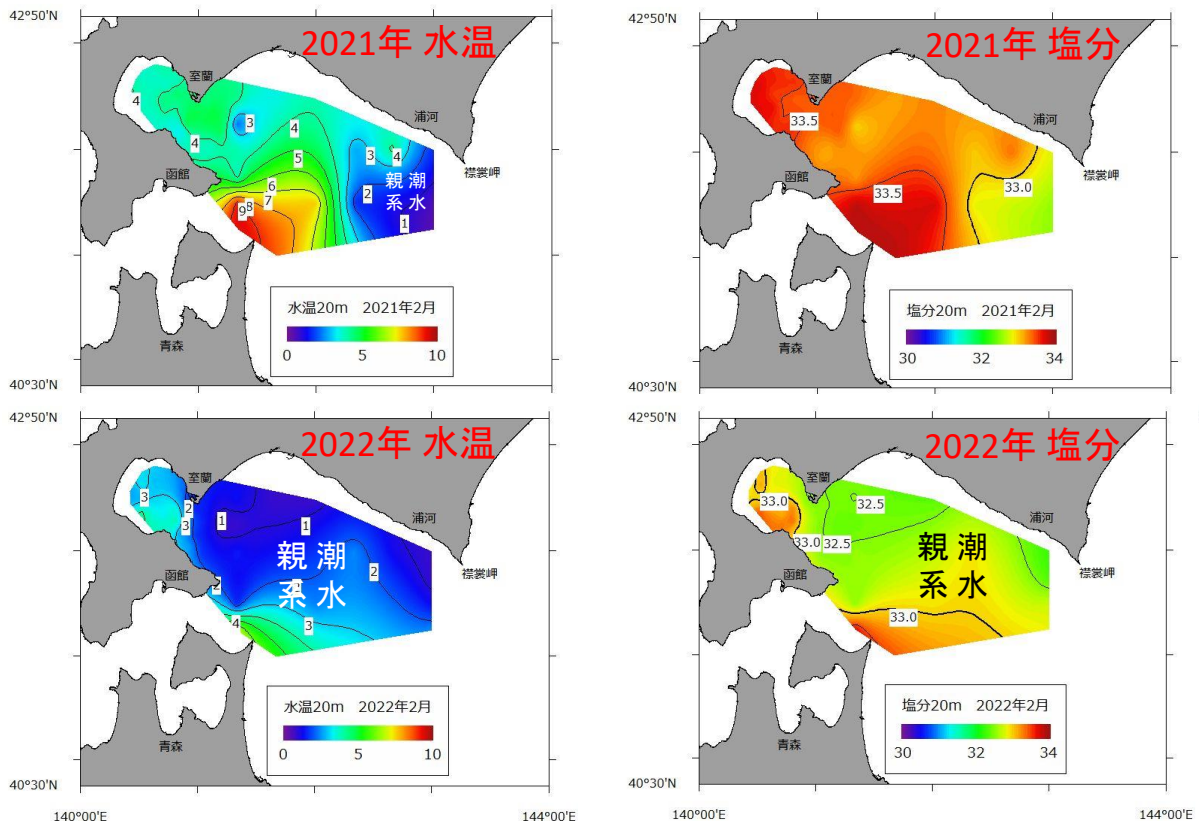


図3 襟裳岬以西における深度20mの水温と塩分の水平分布（上：2021年2月，下：2022年2月）
（資料：北辰丸による定期海洋観測結果）